但馬・小城 大庄屋記念館

養父市指定文化財

長島家住宅

客殿を飾る襖絵と書

1）小林礫川の絵

太公望図

小林礫川は天保4年（1833）に江戸で生まれ文久3年（1862）30歳のときに但馬に訪れました。本名は小林謹之助、雅号は延安といいます。明治初期に高柳村に移り明治37年（1904）に72歳で没しました。養父市を中心として但馬各地に絵が残っています。但馬を代表するふるさとの画家です。襖3面の太公望図襖絵、明治30年に書かれた襖4面の山水図があります。印は「延安藤印」「亀游軒」と刻みます。人物の表情には礫川らしいユーモアがあります。

2）池田草庵の書

書（左から江馬・神山・池田）

池田草庵は文化10年（1813）に宿南村に生まれ、弘化4年（1847）に青谿書院を開塾し、明治11年（1878）に66歳で没しました。通称は池田禎蔵といい、池田緝と名のりました。日本を代表する教育者であり漢学者です。門人には東京大学総長を務めた浜尾新、京都府知事として活躍した北垣国道、文部大臣を務めた久保田譲などがいます。「丁初冬感懐　緝書」とあることから安政4年（1857）ないしは明治元年（1867）に書かれたものでしょう。

また幕末の勤王詩人で明治34年に77歳で没した江馬天江、儒学者で明治23年に66歳で没した神山鳳陽の書もあります。明治維新期に活躍した3人の人物の書が3面の襖となっています。他に谷鉄臣、長沢蓼州の書もあります。

3）北垣国道の書

北垣国道は、天保7年（1836）に養父市能座村に生まれて池田草庵に師事し、その後、明治維新では鳥取藩士として倒幕運動に活躍しました。明治14年（1881）に京都府知事に就任し、その後は北海道開発庁長官としても活躍しました。大正5年（1916）に81歳で没しました。北垣国道の号である「静屋書」の署名があり、印には「北垣国道」の名が刻まれています。能座村の生家跡にあるヒダリマキガヤの巨木は国指定天然記念物です。

養父郡役所に伝来した北垣国道の書

囲炉裏のあるくらし大庄屋

養父市立大庄屋記念館

大庄屋記念館は、養父市小城集落の裏山の高台にあります。江戸時代後期に出石藩の大庄屋（おおしょうや）を勤めた長島善右衛門の時代に母屋が建てられたことから大庄屋記念館と呼んでいます。敷地と建物は養父市が長島家から寄贈をうけて、古い建物を保存しながら昔の生活が体験できる歴史民俗資料館としています。

長島家住宅は明治期に母屋（おもや）が改造され、大正時代に客殿（きゃくでん）が増築されました。このため現在の屋敷は大正時代に最盛期を迎えた豪農が生活する建物群として完成されています。昭和 30 年代以降の現代的な改修をうけることなく、建物が無傷な状態で良好に保存されていることから養父市指定文化財「長島家住宅」となっています。玄関前には山梨の古木があります。

昭和 49 年 11 月に養父町民俗資料館として開館しました。平成 16 年 4 月に養父市の発足を機に養父市立大庄屋記念館と名称を変更しました。30 年以上も続いている、但馬でも最初に開館した民俗資料館です。市内にはほかに市立山田風太郎（ふうたろう）記念館、市立上垣守国養蚕（ようさん）記念館、市立木彫記念館があります。

大庄屋記念館の遠景（丘の上が記念館）

歴史文化遺産の長島家住宅

長島家住宅は、面積が 3, 700 ㎡もある広大なもので、敷地は上段・中段・下段の 3 段になっています。下段には現在は管理棟（受付事務室）があり、中段には母屋・客殿・土蔵、上段には納屋・物置があります。また中段の母屋と上段の納屋の間には帯状の段があり、地神の社があります。また庭園は表座敷前にある母屋の庭園、客殿横にある裏庭園、さらに母屋の西方の庭園と 3 箇所にあります。

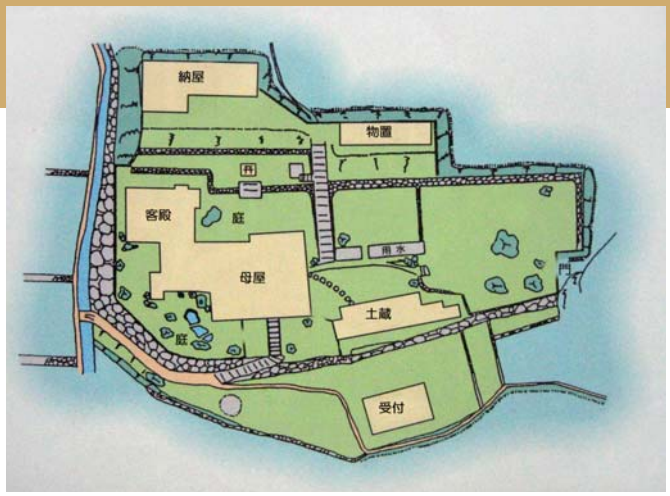
石造りの施設に注目すると、下段から中段にあがる母屋の玄関に続く登り石段、中段の土蔵前から上段の納屋まで一直線に伸びた登り石段があります。また土蔵前には防火用水を兼ねた長方形の石積みの池があります。

特に母屋・客殿の東側の谷川沿いには高さ 10 m もある石垣が積まれています。石垣には日本の伝統である隅角部がなく、緩やかなカーブを描いて石垣ラインが形成されています。これは西洋風の石垣をモデルにして築いた珍しい石垣工法で、明治期に築かれたものです。さらに谷川には谷底が掘れないように石材を敷き詰めた床固工法を採用しています。またこの谷川のすぐ上流には砂防堰堤もあります。セメントを利用しない石積み技法で作られた大正期の貴重な土木遺産です。初期の堰堤として大変貴重な遺構です。

長島家住宅の価値は次の 3 点です。第 1 に丘の高台に築かれた石垣と土塀で囲まれた屋敷全体の景観が大庄屋の風格をつたえて大変な迫力があります。第 2 に幕末・明治・大正に使われた建物が現代の改修を受けずに完全に保存されており、豪農の生活空間をよく伝えています。第 3 に屋敷内外を形成する石垣や屋敷内の登り石段、谷川の床固め工法や堰堤などは近代土木遺産として大変貴重なものです。こうした 3 点の特徴を合わせた長島家住宅に類似する建物は他になく、兵庫県を代表する優れた歴史的文化遺産であり歴史的建造物です。

部屋の間取り図

母屋の台所・流し場



大庄屋記念館　建物配置図

長島家住宅の建造物

母屋は二階建ての木造住宅です。玄関を入ると土間で、左側に八畳間が３室並びます。いろりの間、中の間、店の間になっています。中の間にはケヤキで作られた大きな火鉢をおいています。その後側も同じように八畳間が３室あったようであり、庄屋住宅などでよくみられる六間（むつまど）取りの建物プランが基本になっています。

母屋の奥に内蔵があります。この土蔵の扉の金具に寛保３年（1743）の年号があることから、母屋と土蔵が建物や廻り縁で連結されて現在の姿になったと考えられます。

母屋の建築年代は判明していませんが、天保９年（1838）から嘉永５年（1852）までの15年間、長島善右衛門は出石藩18ヶ村の大庄屋をつとめ、苗字帯刀を許されました。母屋はこの時期に建築されたと考えられます。

母屋表座敷　外観と座敷内

表座敷（八畳）には廻り縁が作られています。その前方に大正時代に整備された庭園があります。上箇（あげ）から薮崎集落を見通す景勝地で、築山と池泉（ちせん）を整備した池泉観賞式庭園となっています。庭に埋められている甕は、江戸時代に作られた越前焼きの甕を利用しています。

客殿は、二階建ての木造建築で、大正時代の建築です。一階は、六畳間が３室、四畳半が１室、茶室が１室あります。二階は２部屋あります。部屋には幕末から明治時代に活躍した小林礫川、手辺村の大庄屋をつとめた長沢蓼州の絵もあります。外からみると多くの窓ガラスを使った贅沢な建物であることがよくわかります。

客殿　ガラス窓の外観と二階貴賓室

織部灯篭

離れの茶室の前の庭に織部灯篭（おりべとうろう）が立てられており、茶人愛好の灯篭として完全な形が残っています。但馬の織部灯篭は、旧豊岡市に５基、出石町に２基、旧朝来町に１基あるだけで、合計９基しか確認されていません。大変珍しいデザインの灯篭です。

千利休の有名な弟子に古田織部（ふるたおりべ）という人がいます。織部灯篭は古田織部が考え出したものと伝えられるもので、桃山時代後期から茶室の灯篭として愛好されるようになりました。さお（柱状の土台の上部）の部分がわずかにふくらんで十字形になり、下部に立像がきざまれていることから、キリシタン灯篭とも呼ばれます。

茶室前庭の織部灯籠

特別展示
人形作家　内海みさ子さんの作品展

内海さんは渡辺うめさんに師事し、但馬を代表する人形作家として活躍中です。平成２年全国手芸コンクール特別賞を受賞されました。但馬牛や蚕の世話に明け暮れた生活など、ふるさとの生活体験が人形作品となっています。家族が力を合わせた仕事の様子や但馬らしい田舎の風景が精巧に表現されています。

洗濯

田植え

繭かき

牛飼い

管理棟です　受付をしてください

長島家住宅の案内

母屋の裏側にある二階から一階まで続く大きな屋根、客殿の白漆喰の壁とハイカラなガラス窓を多用した建て方に特徴があります。母屋は幕末から明治期、客殿は大正期の建築様式をよく表しています。

大庄屋記念館の受付は母屋の一段下にある管理棟の事務室です。最初に受付をしてください。質問や見学説明は管理棟事務室にお問い合わせください。大庄屋記念館のホームページも開設しています。是非ご覧ください

大庄屋記念館の概要

敷地	３，７１８㎡
建物	８９２㎡　〈母屋・客殿・土蔵など〉
居宅	部屋数２１室、風呂２ヶ所、便所５ヶ所
納屋	納屋２棟、倉庫、土蔵３棟、土塀、門５カ所

大庄屋記念館クイズの答え

1) ③梨の古木　2) ①江戸時代の長島さん　3) ③かまど
4) ②若夫婦やお客さんの席　5) ③農家の貴重な現金収入
6) ⑥円山応挙はありません　7) ②一直線に 17 段あります

大庄屋記念館クイズ！

大庄屋記念館は丘の上に高い石垣を積んで屋敷を造成して、母屋や蔵などを建てています。屋敷の景観は、但馬を代表する豪農住宅の姿です。出石藩の大庄屋を務めた記念館を見学しながら、クイズにチャレンジしてみましょう。

1）玄関の前にある古い木は、幹が空洞になっています。木の種類はなんでしょうか？
①縁起の良い松の木　②栗ご飯を食べるための栗の木
③果物を食べるための梨の木　④薬のように大切にされた桃の木

2）昭和 49 年に旧家をゆずり受けて民俗資料館を開館しました。この家を建てた出石藩の時代の大庄屋はだれでしょうか？
①長島善右衛門（小城村庄屋）　②小野山与惣左衛門　（伊豆村庄屋）
③大橋又右衛門（養父市場村庄屋）　④片岡清左衛門（上箇村庄屋）

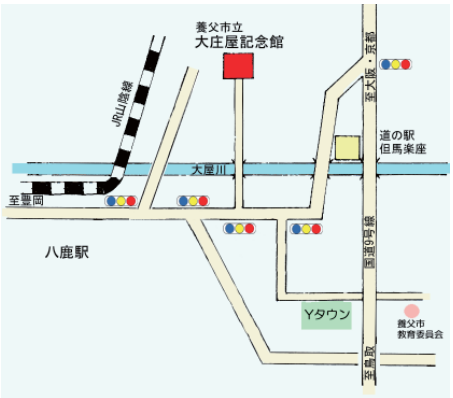
3）玄関の正面奥には台所があります。昔は食べ物をどのように料理しましたか？
①たき火で鉄板を熱くして、その上で魚を焼いた
②ガスで鍋を熱くして、麦ごはんを炊いた
③かまどに火をくべて、羽釜でご飯を炊いた
④七輪で炭をおこして、茶びんで小豆を煮た

4）いろりの間では家族の坐る場所が決まっていました。間違っているものはどれ？
①台所に近い側がナベザで、主婦が座った
②ナベザの正面がタテザで、自由に誰でも座った
③ナベザの左側がキジリで、子供が座った
④ナベザの右側がヨコザで、主人（家長）が座った

5）昔は家でカイコを飼育していました。なぜ、カイコを育てましたか？
①紙すきをして、和紙を作る　②機織り機を使って、布をおる
③カイコのまゆを売り、現金収入をえる　④カイコのまゆで、もめん糸を作る

6）客殿の１階のふすま絵や書の作者として、間違っているものはどれですか？
①小林礫川　②長沢蓼州　③池田草庵
④江馬天江　⑤北垣国道　⑥円山応挙

7）客殿の階段は、幅 80 ㎝の狭くて細長い階段です。階段は何段ありますか？
① 10 段　② 17 段　③ 27 段　④ 40 段



見学される人の乗用車は駐車場Ａか駐車場Ｂに置くことができます。

■所在地：養父市立大庄屋記念館　養父市小城字荒神下 36
■入館料：大人 200 円、小学生：100 円
電話０７９－６６４－０２５０
■連絡先：養父市教育委員会社会教育課
667-0198 兵庫県養父市広谷 250 番地の 1
電話０７９－６６４－１６２８
■発行　：養父市教育委員会　平成 18 年 3 月 20 日
〈養父市文化財パンフレット　No2〉